

伊丹福音ルーテル教会 四旬節第四主日礼拝のしおり

2023 年 3 月 19 日

前奏

招きのことば：詩編 23 編 1-4 節

【賛歌 ダビデの詩】主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない
主はわたしを青草の原に休ませ 憩いの水のほとりに伴い 魂を生き返らせてくださる
主は御名にふさわしく わたしを正しい道に導かれる
死の陰の谷を行くときも わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる
あなたの鞭、あなたの杖 それがわたしを力づける

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちの人生には、生まれつきの障害があったり、災害や事故や大きなストレスで体や心に傷をうけたり、不公平に思ったり不条理に思ったりすることがたくさんあります。そんなとき私たちの心は穏やかではありません。絶望したり、運命をのろったり、人を妬んだり、理解しようと猛勉強したりします。因縁かたたりか、と恐れて、勧められるまま苦行をしたり、ささげものをしたりするという人もいます。あるいは、宿命だからと、すべてをあきらめることから次の一步が始まると思って忘れよう、こだわりをなくそう、と考えることもあります。

ある盲人の方を前にしてイエス様は「それは親のせいでも、この人のせいでもない、この方の上に神様のみわざがあらわれるためです」と言われました。イエス様は私たちのすべてを目的を持ってお作りになり、悲しい現実をすべてご自分の身に負って十字架で死んでくださって、私たちを赦して毎日新しく作り続けてくださって、私たちが創意工夫をして人々の役にたつ生きがいを与えてくださいます。私たちに潤いと実りの豊かな恵まれた日々をお与えくださいます。私たちを暗い心から温かい光のなかに移してくださるイエス様の御名をほめたたえます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：エフェソの信徒への手紙5章8-14節

あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。——光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。——何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。実を結ばない暗闇の業に加わらないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。彼らがひそかに行っているのは、口にすると恥づかしいことなのです。しかし、すべてのものは光にさらされて、明らかにされます。明らかにされるものはみな、光となるのです。それで、こう言われています。「眠りにについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。」

福音書朗読：ヨハネによる福音書9章1-41節

さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目の見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。わたしは、世にいる間、世の光である。」こう言ってから、イエスは地面に唾をし、

唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。そして、「シロアム——『遣わされた者』という意味——の池に行って洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。近所の人々や、彼が物乞いであったのを前に見ていた人々が、「これは、座って物乞いをしていた人ではないか」と言った。「その人だ」と言う者もいれば、「いや違う。似ているだけだ」と言う者もいた。本人は、「わたしがそうなのです」と言った。そこで人々が、「では、お前の目はどのようにして開いたのか」と言うと、彼は答えた。「イエスという方が、土をこねてわたしの目に塗り、『シロアムに行って洗いなさい』と言われました。そこで、行って洗ったら、見えるようになったのです。」人々が「その人はどこにいるのか」と言うと、彼は「知りません」と言った。人々は、前に盲人であった人をファリサイ派の人々のところへ連れて行った。イエスが土をこねてその目を開けられたのは、安息日のことであった。そこで、ファリサイ派の人々も、どうして見えるようになったのかと尋ねた。彼は言った。「あの方が、わたしの目にこねた土を塗りました。そして、わたしが洗うと、見えるようになったのです。」ファリサイ派の人々の中には、「その人は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではない」と言う者もいれば、「どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうか」と言う者もいた。こうして、彼らの間で意見が分かれた。そこで、人々は盲人であった人に再び言った。「目を開けてくれたということだが、いったい、お前はあの人をどう思うのか。」彼は「あの方は預言者です」と言った。それでも、ユダヤ人たちはこの人について、盲人であったのに目が見えるようになったということ信じなかった。ついに、目が見えるようになった人の両親を呼び出して、尋ねた。「この者はあなたたちの息子で、生まれつき目が見えなかったと言うのか。それが、どうして今は目が見えるのか。」両親は答えて言った。「これがわたしどもの息子で、生まれつき目が見えなかったことは知っています。しかし、どうして今、目が見えるようになったかは、分かりません。だれが目を開けてくれたのかも、わたしどもは分かりません。本人にお聞きください。もう大人ですから、自分のことは自分で話すでしょう。」両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れていたからである。ユダヤ人たちは既に、イエスをメシアであると公に言い表す者がいれば、会堂から追放すると決めていたのである。両親が、「もう大人ですから、本人にお聞きください」と言ったのは、そのためである。さて、ユダヤ人たちは、盲人であった人をもう一度呼び出して言った。「神の前で正直に答えなさい。わたしたちは、あの者が罪ある人間だと知っているのだ。」彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、わたしには分かりません。ただ一つ知っているのは、目の見えなかったわたしが、今は見えるということです。」すると、彼らは言った。「あの者はお前にどんなことをしたのか。お前の目をどうやって開けたのか。」彼は答えた。「もうお話ししたのに、聞いてくださいませんでした。なぜまた、聞こうとなさるのですか。あなたがたもあの方の弟子になりたいのですか。」そこで、彼らはのしって言った。「お前はあの方の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、あの方がどこから来たのかは知らない。」彼は答えて言った。「あの方がどこから来たか、あなたがたがご存じないとは、実に不思議です。あの方は、わたしの目を開けてくださったのに。神は罪人の言うことはお聞きにならないと、わたしたちは承

知しています。しかし、神をあがめ、その御心を行う人の言うことは、お聞きになります。生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人がいるということなど、これまで一度も聞いたことがありません。あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならなかったはずです。」彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と言い返し、彼を外に追い出した。イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった。そして彼に出会って、「あなたは人の子を信じるか」と言われた。彼は答えて言った。「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」イエスは言われた。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」彼が、「主よ、信じます」と言って、ひざまずくと、イエスは言われた。「わたしがこの世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる。」イエスと一緒に居合わせたファリサイ派の人々は、これらのことを聞いて、「我々も見えないということか」と言った。イエスは言われた。「見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし、今、『見える』とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る。」

讃美歌 526 番

- 1 主よ、我が主よ 愛の主よ 主は我が身の 救い主
※かくまで主を 愛するは 今日初めの 心地して
- 2 主は十字架 まず負いて 愛の御手を のべたもう ※
- 3 生けるときも 死ぬる日も 声の限り かく歌わん ※
- 4 玉の冠(かむり) 受くるとき この歌をば 主に献げん ※ アーメン

説教：「神のわざが現れるため」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

盲人の方がイエス様によって目が見えるように癒していただいたという出来事が聖書に記されています。イエス様に従っていた弟子たちは前々から、どうして生まれつき、身体の不自由な方がいるのだろう、と不思議に思っていました。その原因を知りたいと思っていました。ちょうどある土曜日のこと、イエス様と歩いているとき、座って物乞いをしている盲人の方を見かけました。弟子たちは、どうしてそんな不公平があるのだろう、本人が神様に愛されていないのか、親のせいなのか、なぜそんな風に生まれて、ずっと苦勞しなければならないのか、とイエス様に尋ねました。「盲人に生まれついたのは、誰の罪のせいですか。本人の罪のせいですか。それとも両親の罪のせいですか。」と尋ねたのですが、盲人ご本人の前で、盲人の方への配慮もなく弟子たちは自分の知りたかったことをイエス様に無神経にも尋ねているのですから、盲人の方を傷つける質問ではないかと思います。けれども盲人の方も、それは人生で一番知りたい

ことだったではないでしょうか。ですからそこから離れず、心を閉ざさず、イエス様のお答えをそこで聞きました。

イエス様は言われました。「本人が罪をおかしたからでも、両親が罪をおかしたからでもない。神のわざがこの人に現れるためである。」 イエス様のお言葉は深いですね。原因は本人でも両親でもありません、しかしこうなったことには目的があります、それは神のわざがこの人に現れるためです、とおっしゃいました。イエス様の弟子たちは原因が知りたかったのですが、イエス様は目的をお知らせくださいました。

そしてイエス様は「わたしは世の光として、神様のわざを行う」と言われてこの盲人の方の目を開いてくださいました。イエス様は盲人の方の前でひざまずいて唾で地面に泥を作り、その両目に塗ったうえで、あのシロアムという池にいつて洗ってごらんなさい、と言われました。盲人の方が素直に信じて洗ってみると見えるようになったのです。

人びとはこの方を見て驚きました。いきさつを聴いて、そのイエス様はどこにおられるのかと問いましたが、この方もまだ目の見えないときに泥を塗っていただいたので、イエス様を見ていません。人々は民の指導者の所にこの方を連れていきました。ファリサイ派の人はその日が土曜日だということを重んじました。土曜日はみんな働かないで休む日、と旧約聖書で定められていたからです。目が見えるようにする、ということはひとつの働きです。ですから民の指導者たちは、旧約聖書の戒めを平気で破る人はよい人ではなく、ましてや神様が遣わした救い主であるはずはない、と考えました。一方、盲人の方はやがて神様が来て救われること、救い主が来られたら、目の見えない者を癒してくださることが同じ旧約聖書に、例えばイザヤ書 35 章 5 節などにおいて予告されていることを知っていました。

ここからユダヤ人たちやファリサイ派の人と、イエス様に目を直していただいた方の間に長いやりとりが始まります。既に多くの方がイエス様が神様から遣わされた救い主であることを信じていましたので、それを覆そうと考えました。イエス様は旧約聖書で戒めを取り次いだモーセを踏みじっているとして、陥れようとしてしました。またイエス様を救い主、メシアだと公言する者は社会から追放すると決めていました。もと盲人の方を何度も呼び出しては尋問し、ついに話題になっていた両親を呼び出して、誰があなたがたの息子の目を開いたのか、と詰問しました。両親は、本人はおとなだから自分で答えます、といって逃げてしまい、最後に彼は大きな議会に召喚されて、あなたの目を開けた方はモーセの戒めに従わない罪びとである、イエスはえたいの知れない者なのだ、と言われました。もと盲人の方は決然とこのようにいいました。「私はただひとつのことを知っています。以前は目が見えませんでした。しかし今は見えるということです。あの方が罪びとかどうかはわかりませんが、罪びとならどうして、また神様のもとから来られたのでなければどうして、生まれつき目の見えなかった私の目を開けることができるのでしょうか。あの方は救い主だと思います」と断言しました。ついさきほどまで人生をはかなみ、通りすがりの人からの僅かな隣みによって生きなければならなかったこのもと

盲人の方は、多くの指導者たちの前で臆することなく、私はイエス様のみわざによって目が見えるようになりました、イエス様が救い主だと信じます、と信仰告白をしたのです。

私たちの人生にどんな意味があるのでしょうか。名前も知られていないこの盲人の方は、人びとの日常生活からは隅においやられた、いてもいなくてもどっちでもよい人のような人でした。先天性の視覚障害によって普通の人生は諦めざるをえなかった悔しさもあるでしょうけれども、甘んじて人々の憐みにすがる物乞いをするしかない、悔しさをかみしめながらも諦めるしかない暗い毎日でした。社会には居場所もなく、心をわって話ができる仲間もおらず、日々何の成長もなく歩まねばなりませんでした。

イエス様はそこに来てくださいます。偶然ではありません。この方を大切に思ってそこお通りになりました。自ら跪いて泥をつくり、その方の最も悩ましいところである目にその泥をぐつと塗り込んで触れてくださり、この方のうちに信仰をつくり、イエス様はご自分のみわざをあらわしてください。さらにイエス様が救い主であることをしっかり信じることができるように信仰を育ててくださいます。この方は親につきはなされ、社会で特定の人を仲間外れにすることができる人々には排除されそうになりました。そんな試練でしたが、彼はかえって自分の目を開けてくださった方が神様から遣わされた救い主であると確信するようになりました。皆さん、イエス様はあなたをあなたとしておつくりくださり、あなたの罪もあなたにまつわるすべての罪をご自分の十字架の苦しみをとおして赦してください、さらにあなたに新しい生きがいと深い希望を与えてくださいます。様々な試練にあうでしょう。考え通りにいかず、予想が外れ、人びとの厳しい声に心を痛めることもあります。けれどもあなたは目的をもって作られ、イエス様と共に歩むとき神様のみわざがあなたの内に現れるのです。人の冷たさや不条理に惑わされず、まっすぐイエス様に信頼して、ぶれることなく与えられたあなたの使命を果たしてまいりましょう。まだイエス様について知らないことは多い私です。神様のことも、イエス様のことも、自分のすべての罪が赦されていることも、新しい命を与えられていることもはっきりわからない、心の目の見えなかった私ですが、今は見えるということは知っています。

イエス様の愛と真実をまだ見ることができない方々に、心を入れて静かに確信をもってイエス様を伝えましょう。心の高慢な人は神様を見ることができません。神様のみわざを見ても、それを認めません。イエス様が神様から遣わされた救い主であるという素晴らしい事実を聖書から聞き、イエス様によって人生を変えられた人々とお話ししても、そんなはずはない、私は認めない、とかえって頑なになります。

お父さんやお母さん、あなたをここまで導いてくださった方々を大事にしましょう。人々の憐みによって生きるのではなく、神様の憐みによって恵まれた喜びをもって、人びとと共に幸せを作っていきましょう。与えられた働きには、言われたよりも二倍も三倍も心を入れましょう。つい無駄にしてしまう時間には、人々の役に立つ働きやその準備を心がけましょう。自分を喜ばせることよりも、また、感謝されなくても、誰かの幸せに繋がることを喜びとしましょう。

イエス様はユダヤ人たちから追い出されてしまったこのもと盲人の方に出会ってくださいました。はじめて顔と顔をあわせてイエス様と会って、イエス様が神様から遣わされた「人の子」であると確信を与えられました。イエス様があなたを捜し出して出会ってくださいます。

イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。ヨハネによる福音書9章3節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讃美歌 142 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 栄えの主イエスの 十字架を仰あおげば 世の富 誉れは 塵にぞ 等しき
- 2 十字架のほかには 誇りは あらざれ この世のものみな 消えなば 消え去れ
- 3 見よ 主の御顔(みかしら) 御手 御足よりぞ 恵みと悲しみ こもごも流るる
- 4 恵みと悲しみ 一つに溶け合い 茨はまばゆき 冠(かむり)と 輝やく
- 5 ああ主の恵みに 報ゆるすべなし ただ身と魂(たま)とを 献げてめかずく **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に としわにたえせず み栄えあれ み栄あれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏